

創業35年。統計解析の老舗

半導体CADと科学技術計算のソフトウェア開発を主たる事業として設立。以来、数理科学とコンピュータサイエンスを融合させた技術と製品の開発を続ける。本文中に登場するVisual Mining Studioは2002年、Text Mining Studioは2005年リリースの製品。社員の多くが大学で数学または物理を修めた経歴を有する“日本最大級のデータサイエンティスト集団”。

Overview

設立：1982年4月1日
従業員数：96名
資本金：5,600万円
本社所在地：東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館1階

*2012年にNTTデータグループへ加入し、2013年より現商号。

「株式会社NTTデータ数理システム様と取り組むソリューション」

NTT DATA Mathematical Systems Inc.



株式会社NTTデータ数理システム
岩本 圭介 様 / いわもと けいすけ
データマイニング部 グループリーダー

TSUZUKI DENKI CO.,LTD.



都築電気株式会社
森 梓 / もり あずさ
シンギュラリティグループ



都築電気株式会社
稲葉 隆士 / いなば たかし
産業営業統括部
第二営業部 第二営業課

Create Synergy! "beyond" CROSS TALK

VOL.1

情報ネットワークソリューションサービスと電子デバイス。既存コアビジネスの裾野を拡大するとともに、成長新分野・新領域へと挑戦していくために、今私たちに何ができるのか。ビジネスのチャンスや可能性を相互に拡大し得るパートナー同士の対談を通じて、未来を切り開く「シナジー」が生まれる現場に迫ります。初回となる今回ご登場いただいたのは、株式会社NTTデータ数理システムでデータマイニングツールの開発リーダーを務めていらっしゃる岩本圭介様です。

きっかけは 特許文献の分析相談

稲葉 御社との付き合いは、2014年の春からでした。特許文献の分析に「Text Mining Studio (TMS)」を使えないか、というご相談をさせていただいたのですよね。
岩本 最初の接点は代理店さんとしてのお問い合わせでしたが貴社自体でもツールを購入いただきありがとうございます。森さんは無料セミナーにも参加して下さいましたね。
森 はい。トライアルだと機能

相互の補完で チャンスが拡大

稲葉 御社には、私自身の技術面でのリテラシーを引き上げていただいたな、という実感があります。また、御社を介して、新分野に向けた新たな企業とのつながりを築くことができました。
岩本 それは当社も同じです。遠方のお客様に当社製品を販売していただいたり、展示会の場で、当社自身では日頃関わりをもてないような新分野のお客様に広めていただいたり。そういった販路の開拓にとどまらず、思い切り開発した製品について、当社自身が認識していなかったような用途を見出して、新たな活路を開いていただけているのが本当にありがたいなと思っています。それというのも、中身についてご理解いただいているからこそですね。
稲葉 新たな活路と言えば、今当社では「健康経営」を旗

最終的には互いの技術を
組み合わせた新サービスを
一緒に作りたいですね (稲葉)

制限されていることが多いなか、フルスペックで体験させていただけのものがありがたかったです。お客様に紹介する時、実際に使った経験があると、説得力のあるご提案ができるので。
TMSは、特許文献のほか、お客様のヘルプデスクにおける収集データの解析業務に活用しています。作業効率の面だけでなく、新しい気づきや改善ポイントを、見える化できる

ようになった意義が大きいと思っっています。
岩本 当社では広告に費用をかけないことでツールの販売価格をおさえることに成功しています。そんな中、営業面においては、何よりユーザーの方たちのクチコミに支えられてきました。そうした中で、稲葉さんや森さんのように、技術面を理解したうえで当社のツールや技術をお客様に紹介して



印にしているのですが、当社電子デバイスのセンシング技術と御社のデータ分析ツールVisual Mining Studio (VMS) やTMS等を組み合わせた新たなソリューションの研究及び実証実験を進めています。IoTとAIの技術を活用して、社会課題である働き方改革への提案を実現したいです。
岩本 最近当社にも、「働き方改革」に関連して、年代や部署の分類に応じた福利厚生施策

協業を視野に 連携強化

をとの要望が寄せられています。ただ、当社は数学的な解を出すことができても、それが現場の実態に即したものにしているとは限りません。現場への提案力というか、コンサルティングの面でも、今後御社にお力添えいただけたらと考えています。
岩本 現状、TMSのユーザーは、特許分析のお客様が

多数いらっしゃいます。一方のVMSは、多くの数式を必要とするマーケティング系のお客様が従来は大半を占めていましたが、最近は製造業のお客様からのお問い合わせが増えてきています。「センサーからのデータを正常/異常判別するには」という相談で、今後強化していきたい分野です。
稲葉 当社が試作・設計したセンサーなどの電子デバイスに、数理システムさんの異常値検出などのプログラムを組み込んで販売できたらいいですね。
岩本 「AI」の代名詞のように言われることの多いディープラーニングの機能をVMSに搭載しました。我々はデータを持っていないので、御社と実証や適用の場を共創しつつ、最終的には新たな製品、サービスにつなげられたら嬉しいですね。

現場の実態に即した
ソリューション提案の面でご助力を
お願いしたいです (岩本)

